

協議事項 7

学年（チーム）担任制と教科担任制について

学年担任制と教科担任制について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和 6 年 5 月 22 日 提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 高田 純

学年（チーム）担任制の取り組み

1. 学年（チーム）担任制の概要

学級担任を固定せず、学級における児童生徒の指導等（小学校での授業や、小・中学校での学活・給食・保護者対応等）の業務を複数の教員がローテーションで担当するなどして行う学級運営の方法。令和5年4月より、モデル実施校を指定し導入。

【導入の目的】

- ①教職員が多面的な視点で児童生徒と関わり、児童生徒の変化に気づく機会を増やす。
- ②多くの教職員との活動や対話を通じて、児童生徒の多様な能力の伸長を図り、健やかな成長につなげる。
- ③教職員が連携・補完することによって、指導力の向上および組織力の強化を図る。

【モデル実施校一覧】

（青…令和5年度より継続、赤…令和6年度より新規）

区	学校園名	実施学年	実施形態・ローテーション頻度
灘	摩耶小学校	5年 6年	3cl を 3人+1人（音楽担当） 1週間毎交替 2cl を 2人+1人（図工担当） 1週間毎交替
兵庫	浜山小学校	5年	2cl を 2人+1人（音楽担当） 1か月毎交替
北	花山小学校	5年 6年	3cl を 3人+1人（図工担当） 1週間毎交替 2cl を 2人+1人（音楽担当） 1週間毎交替
須磨	西須磨小学校	6年	4cl を 4人 3～4週間毎交替
須磨	東須磨小学校	5年 6年	3cl を 3人 1か月毎交替 3cl を 3人+1人（加配教員） 1か月毎交替
東灘	本山南中学校	1年 2年 3年	6cl を 9人 1週間毎交替 7cl を 11人 1週間毎交替 7cl を 11人 1週間毎交替
長田	雲雀丘中学校	1年 2年 3年	2cl を 5人 1週間毎交替 2cl を 5人 1週間毎交替 2cl を 4人 1週間毎交替
垂水	神陵台中学校	1年 2年 3年	2cl を 5人 1日交替 3cl を 6人 1日交替 3cl を 6人 1日交替
中央	港島学園	5年 6年	3cl を 3人+1人（図工担当） 1週間毎交替 3cl を 3人+1人（音楽担当） 1週間毎交替
		7年 8年 9年	2cl を 4人 1週間毎交替 3cl を 4人 1週間毎交替 3cl を 4人 1週間毎交替

教科担任制の取り組み

1. 概要

- ・国の「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について（報告）」（令和3年7月）において、小学校高学年からの教科担任制の推進方策が示された。
- ・本市においては、令和3年度に小学校10校を推進校として指定し、実施教科や学年・担任以外の教員との連携等を先行的に実践した。
- ・全小学校で教科担任制を円滑に実施できるよう**教科担任制の考え方や体制づくり等**を示した基本方針の策定及び「**教科担任制導入の手引き**」を作成し、令和4年度から全小学校の高学年において教科担任制を実施している。

2. 実施状況

(1)各学校の実態（児童の様子、学級数、職員の加配等）に合わせて、様々な方法で実施しているが、代表的なものは以下の2つ。

- ①学級担任をもたない教員（総務・学習指導担当等）による特定教科の指導
- ②学級担任間の授業交換

(2)令和5年度 学年・教科別実施状況（163校）

学年/ 教科	理科	外国語	算数	体育	道徳	社会	家庭	国語	書写	生活	総合	特別 活動	音楽	図工
6年	142	127	61	46	104	98	56	46	34		17	3	163	162
5年	132	122	60	39	100	81	46	38	26		16	2	163	162
4年	99	82	39	35	93	59		16	19		11	1	156	148
3年	71	79	27	19	94	41		7	16		3	0	147	92
2年		12	15	18	89			7	3	6		0	109	56
1年		11	12	17	80			4	4	4		1	94	34

（理科、外国語、算数、体育）＝文科省が示す優先的に専科指導の対象とすべき教科

3. 実施状況調査の結果分析

(1)効果

【教員】

（肯定的な回答の割合）

項目	R4 7月 (管理職)	R5 3月 (抽出校教員)	R5 11月 (管理職)
授業の質の向上	82%	94%	
児童の学習意欲の向上		89%	99%
組織の活性化	34%	85%	94%
業務改善	65%	80%	94%

【児童】

項目	R3 10月 (推進10校)	R5 3月 (抽出9校)
中学校進学への不安が減ると思う		79%
よく分かる授業が増えた	83%	81%
勉強への興味ややる気が高くなった	78%	
担任以外の先生に教えてもらうことは良いと思う	89%	
担任以外の先生にも相談しやすくなった	67%	67%
教科担任制の授業がもっと増えるといいと思う		74%

(2) 課題と解決の方向性

- ・ 時間割の編成や調整が煩雑である。
 - ICT 機器を活用し、全学級の時間割を一括管理するなど学校全体で共有する。
- ・ 教員の教科ごとの経験値に偏りが生じる。
 - 校外での研修に積極的に参加し、授業力を向上させる。
 - また、受け持ちの教科は長期的計画により偏りがないように指導していく。
- ・ 生活指導等のトラブルが発生したときなど、担任が児童の情報を把握するのに時間を要する。
 - 日頃から学年間や校内で連絡を密にする体制を整え、組織で対応する。

4. 今後の取組

- ・ 3・4年生への教科担任制導入や、優先的に専科指導の対象とすべき教科の複数実施等、実施状況調査の結果をもとに、より効果的な実施方法等を検証する。
- ・ 検証結果や効果的な運用方法等を管理職研修等で発信し、学校を継続的に支援する。
- ・ 引き続き、各校での教科担任制をより円滑に進め、より一層の授業の質の向上、児童の多面的な理解、小・中学校間の円滑な接続を図る。

【参考資料】

令和4年度公立小・中学校などにおける教育課程の編成・実施状況調査 調査結果の概要について
(調査対象：公立小学校、義務教育学校前期課程から無作為抽出により1,235校)

